

都城市議会議長 様

提出日 令和 8 年 7 月 24 日

氏 名 川内 賢幸

研 修 報 告 書

以下のとおり研修の報告をいたします。

1 所属会派名

自民党市民の会 川内賢幸

2 研修名

全国若手議員の会 九州ブロック研修会

3 受講場所

大分県佐伯市 佐伯市役所及び cafeKIISA

4 受講期間

令和 8 年 7 月 22 日（水）

5 研修内容

テーマ：リノベーションまちづくり

説明者：佐伯市役所都市計画 後藤好信 氏、
一般社団法人 KIISA 理事（元市役所職員）河野 功寛氏

視察先に選んだ理由は、現役の市役所職員が手弁当で始めたリノベーションまちづくりが、地域はもちろん地域外の人々も巻き込んで街の賑わい創出に取り組んでいることに、これからの地域再生の可能性を感じたことから選定。

◎佐伯市街地グランドデザイン

令和元年に策定された、今後 20 年後を見据えた中心市街地の将来像を描くとともに、にぎわい創出、公共施設等の有効活用、良好な居住環境の形成に向けた方針、施策をまとめた計画の概要を調査。エリア別のまちづくり、重点プロジェクト、民間主導のまちづくりの 3 項目に分かれており、中心市街地のもつポテンシャル別に取り組む内容が分けられている。

◎船頭町賑わい創出へ市民有志による取組み

現職の市役所職員 2 名(1 名は現在退職)が手弁当で始めた完全市民主導によるまちづくり。空き店舗、空き旅館を自己資金や借金で購入し、再生するところからはじめ、今ではまちの計画にも影響を与えている。

6 研修の感想

◎船頭町賑わい創出へ市民有志による取組み、佐伯市街地グランドデザイン

メインは船頭町の市民有志による賑わい創出への取組。2015 年から中心市街地の一部エリア船頭町の可能性に着目して、取り組みが始まっていた。

Project の中心は現在も現市役所職員である後藤氏と当時現職（今元職）となり一般社団法人 KIISA 理事などを務める河野氏 2 名。二人は、船頭町エリアで空き家・空き店舗の再生や街の価値向上を目指すユニットドークリを結成し活動。

後藤氏は、閉店していた時計店を購入。河野氏は閉館していた旅館をそれぞれが購入し、リノベーションによるまちづくりを開始。

市内外にはたらきかけてワークショップ形式でリノベーションを実施することで、関係人口や交流人口の創出にも寄与していた。

結果的に、この取組が令和 2 年に策定された佐伯市街地グランドデザインに反映される形となったことは、将来のまちづくりの可能性を感じるものである。

7 研修の成果及び市政への反映

本市では、タウンマネージャーから地域プロジェクトマネージャーと中心市街地活性化に多額予算を投じてきている。

その成果も見えているが、予算の切れ目が活性化の切れ目になるリスクをはらんでいる。

今回の研修先は、現職の市役所職員が手弁当で活動を進めて、11 年目となった今もなお手弁当で活動している点がほかと大きく異なる点である。

補助金を投入すれば、成果を出しやすいが、その活用されたものが「本当の意味で地域の活性化に寄与するものか疑問が残る。実数を求めている取組になりかねない。」との発言が非常に心に響いた。

地域から、市民からの発生にまさるものはない、補助金投入で一時的な成果を上げることではできても、本当の意味での地域活性化にはつながらない、そのことを強く感じた。

一方で、公民館未加入などにみる地域力の低下は如実になっているのも事実であり、補助事業等を活用した燃料注入による手法も必要であると思う。

本市では中心市街地に大変な重点を置いているが、15 地区それぞれに地域の課題を抱えているのが実情である。今もなお灯り続けている地域の炎が消える前に、積極的な関わり方と地域別の将来ビジョンとそこに向かうための協働の体制づくりが必要と考える。

8 添付資料



▲ 歯科医院跡をリノベーションした cafeKIISA